

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：くしろなかしべつ 釧路中標津道路（一般国道272号） かみべつぼ 上別保道路	事業区分	地域高規格道路 路	事業主体	国土交通省 北海道開発局		
起終点	自：ほつかいどうくしろ くしろ かみべつぼ 北海道釧路郡釧路町上別保 ほつかいどうかわかみ しべちや あれきない 至：北海道川上郡標茶町阿歴内			延長 7.8 km		
事業概要 釧路中標津道路は、釧路市から標津町に至る延長約100kmの地域高規格道路であり、高規格幹線道路網と一体となって広域交通ネットワークを形成するものです。 このうち上別保道路は、釧路町上別保から標茶町阿歴内に至る延長7.8kmの事業であり、広域ネットワークの拡充による地域間交流の活性化、線形不良の解消及び冬期視程障害の解消等を目的とした道路です。						
H19年度事業化	H一年度都市計画決定	H22年度用地着手	H21年度工事着手			
全体事業費		約53億円	事業進捗率	22%	供用済延長	0.0 km
計画交通量		6,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 1.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 44/56億円 (事業費：32/44億円) (維持管理費：12/12億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 76/76億円 (走行時間短縮便益：61/61億円) (走行経費減少便益：6.1/6.1億円) (交通事故減少便益：8.9/8.9億円)	基準年 平成23年		
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.4~1.8 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.4 (事業費±10%) 事業費：B/C=1.6~1.8 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.4 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.6~1.7 (事業期間±20%)						
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①拠点都市間の利便性向上 ・釧路市・中標津町における、拠点都市間の利便性向上が期待される。 ②走行環境の安全性向上 ・走行環境の改善により、交通の安全性向上が期待される。 ③水産品の流通利便性向上 ・羅臼町、標津町、別海町で水揚げされた「さけ」の流通利便性向上が期待される。 ④地吹雪に起因する通行止めを軽減 ・既存林の活用等により、地吹雪に起因する通行止めを軽減し、安定した交通を確保する。 ⑤災害時の緊急輸送ルートの強化 ・災害時における迅速な救急搬送や救援物資等の輸送に資する道路ネットワークが確保される。 ⑥CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量248(t-CO ₂ /年)の削減が期待される。						
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 釧路市など1市7町村の首長等で構成される「北海道釧路地方総合開発促進期成会」等より、早期整備の要望を受けている。 知事の意見： 広域ネットワークの拡充による地域間交流の活性化や物流の効率化、現道の線形不良区間の解消による通行車両の安全性の向上など、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。						

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。
 なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成21年11月 北海道横断自動車道 本別IC～浦幌IC供用
- ・平成23年5月 釧路港が国際バルク戦略港湾（穀物）に選定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度に工事着手して、用地進捗率32%、事業進捗率22%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

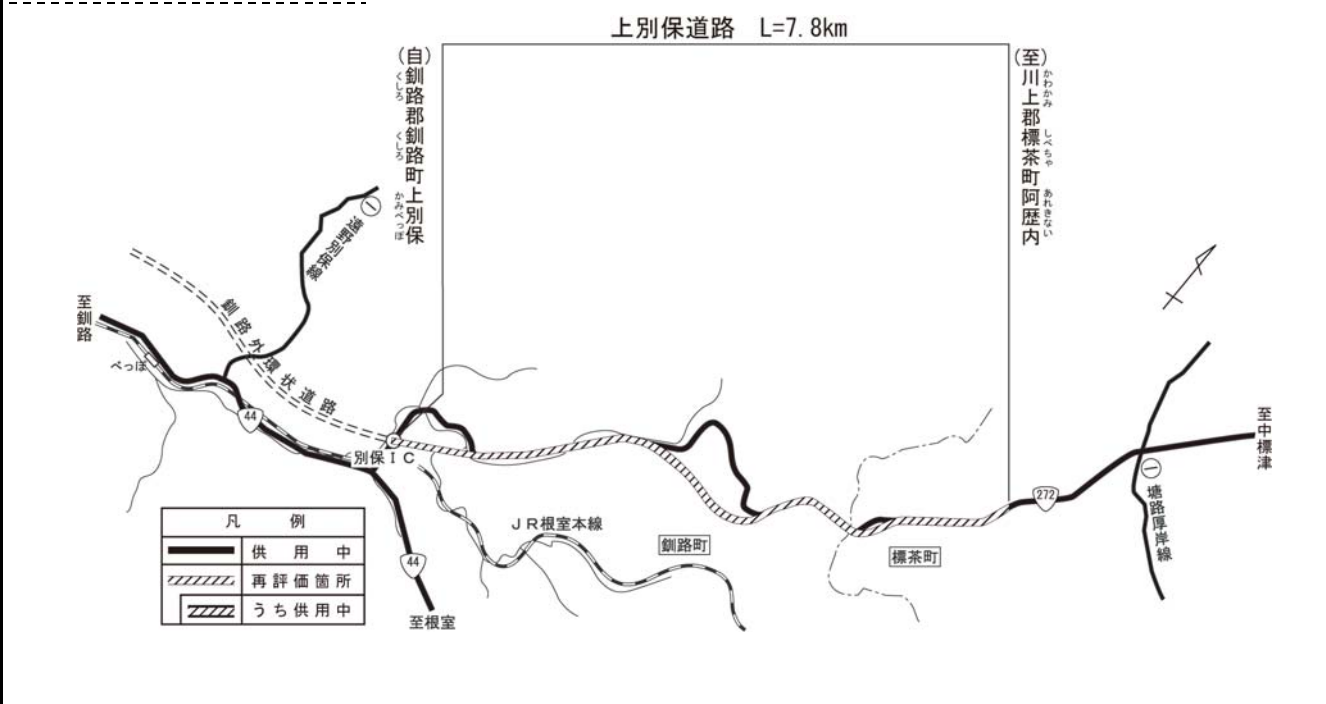
施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト削減に取り組んで行く。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。